第2学年　音楽科　年間指導計画

音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

第2学年の目標

(1)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
(2)多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。
(3)多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

学期	月	題材名	評価規準	主な教材	時	評価基準 知識・技能	評価基準 思考・判断・表現	評価基準 主体的に学習に取り組む態度	学習指導要領の内容 表現 曲想と表現	表現 発声と言葉の表現	表現 声部の役割と響き	表現 創作 言葉や音階など	表現 創作 音素材と構成	鑑賞 音楽の構造と曲想・批評	鑑賞 音楽と文化・歴史	鑑賞 音楽の多様性	共通事項	評価資料
一学期	4	パートの役割を感じ取り曲想を生かした表現をしよう	歌詞の内容を味わい、その言葉を聞き手に届けるような歌い方を工夫する。	「サンタルチア」 「翼をください」 「夏は来ぬ」		曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○						音色・旋律・強弱・リズム・テクスチュア	授業観察
	5	曲の持つ情緒を味わいながら特徴を生かして表現豊かに独唱しよう。	リズムや旋律などの、音楽を形づくっている要素を知覚する。音楽の構成を理解して、表現を工夫する。			カンツォーネについて調べ、イタリア語の発音と発声を身につけて歌える。歌詞の内容を理解し、日本語の持つ抑揚とリズムを生かした表現をするための技能を身につけている。	歌詞の構成と曲の形式との関わり合いを理解し、強弱の変化や速度の変化に留意し、どのように表現していくかについて思いや意図を持っている。	正しい姿勢や、視線、口の開け方、発声についてのさまざまな課題について自ら課題をもって取り組むことができる。	○	○	○						リズム・旋律・形式・構成	授業観察 実技テスト ノート
		ソプラノコーダーの奏法を身につけ、演奏しよう。	リコーダーの高音2音のスムーズな運指と息の調節を身につける。また、プラルトリラーなどの装飾奏法に精通し楽曲にふさわしい表現を工夫する。	「ホールニュウワールド」 「コンドルは飛んで行く」		2オクターブの音域内の運指を身につけている。装飾奏法を理解し吹き分けられる。息の量とスピードを意識的に調整できる。	楽曲の雰囲気に合わせてどのような音色で演奏するかについて思いや意図を持っている。	リコーダーの技術取得のために効率よく粘り強く練習に取り組もうとしている。	○						○		リズム・旋律・形式・構成	ノート 授業観察
	6	パートの役割や旋律の重なり方、曲想を感じ取り速度や曲想を生かした表現を工夫しよう。	歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きなどを感じ取って、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。	「時の旅人」 「フーガト短調」		主旋律・オブリガート・ハーモニーといった声部の役割について理解を深め、その役割に適した音楽表現を工夫して歌うことができる。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受し、どのように歌っていくか工夫して表現することができる。	他声部を聴きながら、主体的に合わせて合唱に取り組むことができる。頭声発声を心がけ美しい音色を身につけようと取り組んでいる。	○	○	○						音色・旋律・強弱・リズム・テクスチュア	授業観察
		旋律の重なり方、オルガンの音色、バロック音楽に親しもう。	音楽の構造と曲想の関わり合いを理解し、バロック音楽のよさや美しさを味わう。			パイプオルガンの音色の特徴、主題の反復と変化、多声音楽の特徴、フーガの構成を理解・知覚している。	パイプオルガンの音色の特徴、主題の反復と変化、多声音楽の特徴、フーガの構成、感じたことをを自分の言葉でまとめることができる。	パイプオルガンの音色の特徴、主題の反復と変化、多声音楽の特徴、フーガの構成に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組んでいる。				○	○	○	○		旋律・音色・テクスチュア	授業観察 実技テスト
	7	いろいろな音を見つけて、情景を音楽で表そう。	音楽の諸要素の働きを生かした創作をする。	「Let's Create!」		音素材の特徴や、反復、変化などの構成に関心をもちながら、イメージを基に音楽を作る学習に主体的に取り組んでいる。	表現したいイメージをもち、それに合う音素材を選んで、反復、変化などの構成や音の重なりを工夫し、どのように音楽を作るかについて思いや意図をもっている。	音素材の特徴、反復、変化などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけて音楽を作っている。				○	○				音色・強弱・形式・構成	提出物
		ソプラノコーダーでアンサンブルを演奏しよう。	リコーダーの様々な奏法を駆使しながら二重奏や3重奏にチャレンジし。アンサンブルの響きを味わう。	2重奏、3重奏、4重奏の任意の小品		他声部の動きとそれに絡む自分の声部の役割を理解し、アタックやリリース、ブレスのタイミングを揃えて演奏している。	独奏ではなく重奏であることを認識しどのような音色で演奏するかについて思いや意図を持っている。	二人ないし三人で、互いに聴きあい意見交換をしながら練習に取り組もうとしている。	○			○		○		○		授業観察 提出物 実技テスト
二学期	9	パートの役割や旋律の重なり方、曲想を感じ取り速度や曲想を生かした表現を工夫しよう。	歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きなどを感じ取って、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。	合唱コンクール自由曲		曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関りについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	旋律、音色、強弱・テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○		○				○	旋律・強弱・形式・構成 音色・旋律	授業観察 実技テスト
	10	オーケストラの響き、曲の構成に着目しながら名曲に親しもう	音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取り、その背景となる文化・歴史と関連付けて聴き、よさや美しさを味わう	オーケストラの楽器		楽器の音色や響きと奏法とのかかわりについて理解している。	音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受して、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽の良さや美しさを味わい聴いている。	曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組んでいる。					○	○	○	音色・リズム・旋律・強弱・形式	ワークシート 授業観察 提出物
			ソナタ形式の仕組み、オーケストラの楽器と響きを理解し、古典派の音楽の良さや美しさを味わう。	交響曲第5番 「運命」 第1楽章		動機の反復や変化、ハ短調、ソナタ形式や構造を知覚し、感受している。「交響曲第5番」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して、音楽のよさや美しさを味わっている。	音色、旋律、速度などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこと殿関りについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。	楽器の音色や響きと奏法とのかかわりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。					○	○	○		
	11	詩や曲の雰囲気に合った声で、言葉を大切にして歌おう。	歌詞の内容と強弱や形式との関わり、拍子や伴奏が生み出す雰囲気を感じ取り、表現を工夫して歌う。	「夏の思い出」 「荒城の月」		曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関りについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○		○						授業観察 実技テスト
	12	総合芸術のオペラに親しもう	音楽の特徴や魅力について他分野の芸術との関りを理解しながら味わい、その良さの根拠を言葉で説明したり、表現の工夫に生かしたりする。	「カルメン」 「トゥーランドット」 「魔笛」 「ワルキューレ」 「アイーダ」		オペラという舞台芸術に関心を持ち、その成り立ちや歴史的背景について理解を深めることができる。声の特徴の違いを聞き分け、その良さを伝え味わうことができる。	声の特徴や音色、旋律、テクスチュアなどを知覚し、それらの要素と曲想の関りを理解して、オペラという総合芸術が多くの支持を得て発展してきたことを根拠をもって説明し、味わって聴くことができる。	オペラについて、音楽の特徴とその背景となる文化・歴史やた芸術との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。						○	○	○		ワークシート 授業観察
三学期	1	日本の歌の良さや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう。	歌詞の内容や曲想、発声や言葉の特性を生かし、表現を工夫して歌うとともに、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて聴き、音楽の多様性を理解し、そのよさや美しさを味わう。	「花」 「早春譜」 「椰子の実」 「花の街」		曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関りについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	リズムや強弱など、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。						○	○		リズム・旋律・速度・音色	提出物 授業観察
	2 3	パートの役割や旋律の重なり方、曲想を感じ取り速度や曲想を生かした表現を工夫しよう。	パートの役割や旋律の重なり方、曲想を感じ取り速度や曲想を生かした表現を工夫しよう。	式歌 「ひとつの朝		曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関りについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	○						授業観察 実技テスト